

## 12 経営情報専攻専門科目



授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学修を前提として講義をします。</p> <p>【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山寛、北村敬子（編）『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』（令和6年版）、中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』（第3版）、中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記一巡の手続きとは？：仕訳・転記・決算</p> <p>第2回 売掛金と買掛金：人名勘定、売掛金と元帳と買掛金元帳、売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金</p> <p>第3回 その他の債権と債務：貸付金と借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金、仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証金</p> <p>第4回 受取手形と支払手形：手形の意義と補助簿、手形貸付金と手形借入金、電子記録債権と債務</p> <p>第5回 有形固定資産：有形固定資産の取得、減価償却、有形固定資産の売却</p> <p>第6回 有形固定資産：固定資産台帳、年次決算と月次決算</p> <p>第7回 貸倒損失と貸倒引当金：貸倒れと貸倒損失、貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本：株式会社の設立と株s期の発行、繰越利益剰余金、配当</p> <p>第8回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品、諸会費</p> <p>第9回 税金：租税公課、法人税、住民税及び事業税、消費税</p> <p>第10回 伝票：仕訳帳と伝票、3伝票制、伝票から帳簿への記入</p> <p>第11回 伝票：伝票の集計</p> <p>第12回 財務諸表：試算表の作成、決算整理</p> <p>第13回 財務諸表：精算表の作成、財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題：問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題：問題演習と解説</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト100%			
実務経験について	なし			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】管理はすべての集団・組織において存在する職能です。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することと定義できます。従って経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能となります。またこの活動を行うのは経営者の役割です。この講義では、経営者が、効率的な組織運営のための工夫や、組織内部の関係者や組織外部の状況に効果的に対処する方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。</p> <p>第8回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理（2）：採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理（3）：人事異動（初任配置・配置転換・昇進など）について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理（4）：人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理（5）：人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理（6）：人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	労務管理論		担当者	近間 由幸
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 授業外対応 (要予約)
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】 授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する</p> <p>【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 永田瞬・戸室健作編『働く人のための人事労務管理』八千代出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODクシヨナー講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第 2 回 労務管理とはなにか</p> <p>第 3 回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第 4 回 組織構造と職務内容</p> <p>第 5 回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第 6 回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第 7 回 賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給</p> <p>第 8 回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第 9 回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第 10 回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第 11 回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第 12 回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第 13 回 労務管理と労働組合</p> <p>第 14 回 労務管理の国際比較</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)			
実務経験について	なし			

授業科目	管理会計論		担当者	劉 美玲
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 授業外対応 (要予約)
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 管理会計論</p> <p>【概要】 この講義は、管理会計の基本的な考え方、伝統的な管理会計手法、新しい管理会計手法及び、日本的な管理会計手法について学びます。</p> <p>【到達目標】 管理会計の基礎知識と基本的な考え方を習得し、学校やアルバイト先など身の回りのさまざまな管理会計システムを理解し、将来の生活や仕事に活かすこと。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストを配布します。</p> <p>(2) 『エッセンシャル管理会計』(第3版) 谷武幸 (2013) 中央経済社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、管理会計の基礎</p> <p>第 2 回 意思決定会計</p> <p>第 3 回 業績管理会計</p> <p>第 4 回 長期経営計画</p> <p>第 5 回 設備投資計画</p> <p>第 6 回 短期利益計画</p> <p>第 7 回 予算管理</p> <p>第 8 回 中間テスト</p> <p>第 9 回 事業部の業績管理</p> <p>第 10 回 原価管理</p> <p>第 11 回 ABC/ABM</p> <p>第 12 回 バランス・スコアカード</p> <p>第 13 回 原価企画</p> <p>第 14 回 アメーバ経営</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習してください。			
成績評価の方法	中間テスト (40%) 期末テスト (60%)			
実務経験について	なし			

授業科目	原価計算		担当者	劉 美玲
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原価計算入門</p> <p>【概要】原価計算の仕組みを理解することは、原価管理や原価改善のために不可欠である。本講義では、原価計算の基礎について、計算問題に取り組みながら学びます。</p> <p>【到達目標】原価計算の基礎的知識と技術の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高橋賢『テキスト原価会計』(最新版) 中央経済社</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、原価及び原価計算の基礎知識</p> <p>第 2回 原価の費目別計算</p> <p>第 3回 製造間接費の配賦</p> <p>第 4回 単純個別原価計算</p> <p>第 5回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 1</p> <p>第 6回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 2</p> <p>第 7回 中間テスト</p> <p>第 8回 単純総合原価計算</p> <p>第 9回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理</p> <p>第 10回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算</p> <p>第 11回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算</p> <p>第 12回 標準原価計算 1</p> <p>第 13回 標準原価計算 2</p> <p>第 14回 直接原価計算</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。			
成績評価の方法	中間テスト (30%) 期末テスト (70%)			
実務経験について	なし			

\*受講生の会計系履修済み科目の状況や学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。  
会計学総論、簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、管理会計論を受講済み、もしくは日商簿記3級を学習済みであることが望ましい。

授業科目	経営学特講Ⅰ		担当者	田原 武志・東 圭太
	[履修年次] 1,2年	[学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	授業終了時、もしくは適宜、メール、電話にて対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【講義の特徴】毎週のレポート作成、発表を通じて、レポート作成力が身につきます。結果、経営情報からの4年制大学編入試験の合格者の多くが当講義の履修者です。編入試験を目指す、他学科からの受講生を積極的に受け入れています。(手続きをすれば受講可能です。)</p> <p>【テーマ】経営を学んで、人生を豊かに幸せにしよう。</p> <p>【概要】マネージメント手法を学びます。本講義で定義する経営は会社はもちろん、大学の文化祭実行委員会、部活動、町内会、PTA、家庭、人生なども含みます。講義を通して、情報収集、論理展開、自分の意見をもつ重要性を伝えます。毎回の講義で達成感、充実感を提供し成長を実感させます。大学で受講した講義の中で一番思い出深い講義の一つになると確信しています。</p> <p>【到達目標】社会人として様々な立場で、講義で学んだマネージメント手法を活用し成果を出せるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、次回課題をプリントにて配布、並びにメールにて送信。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーリング</p> <p>第 2回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表 ～ (テーマ例)</p> <p>第 14回 「隠れた経営資源に気づく」 「目的、目標の設定の重要性を認識する」 「継続的改善の仕組みを取り入れる」 「企業の果たす社会的責任について認識する」 「トレンドを把握する」 「コンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」 「企業人、社会人、家庭人としてのリスクマネージメント」 「投機と投資の考察」等々</p> <p>第 15回 まとめ 試験対策</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習(課題が毎回発表)と復習(講義のまとめ)のレポート作成があります。			
成績評価の方法	レポート提出 (35%)、授業での発表 (35%) 筆記試験 (30%)			
実務経験について	30年間以上の経営コンサルタント実務有り。経営する会社が平成11年鹿児島商工会議所 産業経済賞大賞受賞。			

授業科目	経営学特講Ⅱ		担当者	瀬口 毅士		
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択
					〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代の多国籍企業を理解する上で有益な各種資料を使用しながら進めます。また、リアクションペーパーやグループ・ワークを活用することで、双方向の授業を目指します。したがって、他の学生と議論し皆の前で発表することに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略における現代的特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られる企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)					
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODククション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。</p> <p>第 3回 現代企業の動向 (1)：各種資料を用いて、現代企業の実例を知る。</p> <p>第 4回 多国籍企業の経営環境 (1)：グローバリゼーションを中心に、多国籍企業の経営環境を講義する。</p> <p>第 5回 多国籍企業の経営環境 (2)：各種資料を用いて、経営環境の現代的特徴を考える。</p> <p>第 6回 多国籍企業の経営環境 (3)：グループ・ワークを通じて、現代の経営環境について議論する。</p> <p>第 7回 多国籍企業の活動 (1)：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第 8回 多国籍企業の活動 (2)：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の経営戦略について議論する。</p> <p>第 9回 市場戦略の現代的特徴 (1)：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。</p> <p>第 10回 市場戦略の現代的特徴 (2)：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第 11回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。</p> <p>第 12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (1)：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。</p> <p>第 13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (2)：各種資料によって、多国籍企業の市場戦略と文化を考える。</p> <p>第 14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (3)：グループ・ワークによって、これまでの内容を検討する。</p> <p>第 15回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど (30%)					
実務経験について	なし					

授業科目	情報管理論		担当者	竹中 啓之		
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択
					〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】この授業では、情報とはそもそもどのようなものなのかについて考える。そのため、情報の特性、情報が重要である意味、情報を理解する際の注意点など、「情報の扱い方・読み解き方」について講義する。情報機器を扱う技能やスキル等を取り上げることにはしないが、情報を扱う際に重要だと思われる概念や考え方について、社会科学的な視点から捉えられるような知識や手法を説明し、現在の情報社会のあり方についても考える。</p> <p>【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する					
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2回 情報とは何か・情報の定義 (1)：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。</p> <p>第 3回 情報とは何か・情報の定義 (2)：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。</p> <p>第 4回 情報社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。</p> <p>第 5回 情報リテラシーについて (1)：情報リテラシーの概要について説明する。</p> <p>第 6回 情報リテラシーについて (2)：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。</p> <p>第 7回 情報リテラシーについて (3)：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。</p> <p>第 8回 メディアの歴史について (1)：各種メディアについて理解を深める (新聞～テレビ)。</p> <p>第 9回 メディアの歴史について (2)：各種メディアについて理解を深める (テレビ～ネット)。</p> <p>第 10回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。</p> <p>第 11回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第 12回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。</p> <p>第 13回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。</p> <p>第 14回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。</p> <p>第 15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。					
実務経験について	なし					

授業科目	会計情報論		担当者	宗田 健一		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計情報の作成方法、伝達方法、利用方法を知る</p> <p>【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について、その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入力して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】会計情報の作成、伝達、利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 宇田川 荘二『中小企業の財務分析』（第6版）同友館。</p> <p>(2) 随時指定</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明、分析対象企業の選定。</p> <p>第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINETの使い方、アニュアルレポートの入手等）</p> <p>第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROEなど）</p> <p>第6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）</p> <p>第7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）</p> <p>第8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）</p> <p>第9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点など）</p> <p>第10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①）</p> <p>第11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②）</p> <p>第12回 時系列分析（2社以上）</p> <p>第13回 同業他社比較分析（2社以上）</p> <p>第14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>					
授業外学習(予習・復習)	PC教室での講義となりますので、各自で予習、復習をお願いします。					
成績評価の方法	中間レポート(30%)、期末レポート(70%)					
実務経験について	なし					

1年生でも履修可としますが、会計学総論、簿記論、財務会計論を履修済みの学生を対象とした内容です。それらを履修済みでない場合も、日商簿記検定3級レベルの内容を理解できておれば履修して構いません。なお、エクセルの基礎的な操作を必要とする講義です。

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士		
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)		
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第3回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第4回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例を挙げながら、規模の経済と範囲の経済を説明する。</p> <p>第5回 垂直統合と垂直分業、水平統合と水平分業：統合と分業について、垂直と水平に区分しながら解説する。</p> <p>第6回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第7回 M&amp;Aと戦略的提携（1）：事例を紹介しながら、M&amp;Aについて解説する。</p> <p>第8回 M&amp;Aと戦略的提携（2）：事例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。</p> <p>第9回 経験曲線とPLC：PPMの基礎となる、経験曲線とPLCについて解説する。</p> <p>第10回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における2つのアプローチを紹介する。</p> <p>第12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を考察する。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験(100%)					
実務経験について	なし					

授業科目	財務会計論		担当者	岡村 雄輝				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計のルールと基礎概念を理解する</p> <p>【概要】簿記論では技術的な学習が中心でしたが、本科目では「企業会計に関する問題」を取りあげた新聞記事を教材として、現代社会のなかで複式簿記を基礎とする会計という計算制度の果たしている役割を学習します。言い換えれば、「企業会計」への社会的視線を出発点にして、財務諸表の社会的役割や財務諸表の作成原理について解説を進めていきます。※会計学総論、簿記論Ⅰ・Ⅱの学修を前提として講義を展開します。</p> <p>【到達目標】各企業の採用している会計方法の違いが財務諸表に及ぼす影響を与えるか、さらには、そうした会計方法を採用した理由・背景などにも関心を向けて欲しい。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 永野則雄『ケースでまなぶ財務会計』(第9版), 白桃書房。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』(第25版), 中央経済社。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン: 会計をめぐる2つのドラマ</p> <p>第2回 会計の役割と規則: 会計の機能と法規制</p> <p>第3回 財務諸表における表示: 貸借対照表と損益計算書の関係と取引の認識</p> <p>第4回 財務諸表を読む: やさしい経営分析</p> <p>第5回 会計の計算原理: 物語としての会計</p> <p>第6回 棚卸資産の会計: 棚卸資産, 評価方法, 期末評価, 処理方法の変更</p> <p>第7回 有形固定資産の会計: 有形固定資産, 減価償却の意味, 算定方法, 減損, リース</p> <p>第8回 無形固定資産の会計: 無形固定資産, のれん, 研究開発費とソフトウェア, 繰延資産</p> <p>第9回 金融資産の会計: 金融資産, 有価証券, デリバティブ</p> <p>第10回 負債の会計: 負債, 引当金, 退職給付債務, 資産除去債務</p> <p>第11回 純資産の会計: 純資産の部, 会社の再編, 自己株式, 配当</p> <p>第12回 収益・費用・税金: 収益と費用の認識, 税効果会計</p> <p>第13回 連結財務諸表: 連結決算の意義</p> <p>第14回 その他の財務諸表: 包括利益計算書, キャッシュフロー計算書, 株主資本等変動計算書, 注記</p> <p>第15回 決算: 真実な報告と会計戦略</p>							
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。							
成績評価の方法	期末テスト100%							
実務経験について	なし							

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士				
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、内容の理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにはいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン: 授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 マーケティング論の基本概念: マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第3回 グループ・ワーク(1): 身近な商品について考えてみよう。</p> <p>第4回 標的市場の選択: STPについて解説する。</p> <p>第5回 消費者行動分析: 消費者行動論の基本を知ること、諸飛車の購買行動について理解を深める。</p> <p>第6回 競争分析: 「ポジショニング」の諸理論を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第7回 グループ・ワーク(2): STPを使ってみよう。</p> <p>第8回 製品戦略: 製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第9回 価格戦略: 価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第10回 流通戦略(1): 流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第11回 流通戦略(2): チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第12回 プロモーション戦略: プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に講義する。</p> <p>第13回 ブランド戦略: これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第14回 企業の社会的責任とマーケティング: 企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第15回 グループ・ワーク③: ソーシャル・プロダクツを探してみよう。</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験(80%) +リアクシヨン・ペーパーやグループ・ワークなど(20%)							
実務経験について	なし							



授業科目	流通論		担当者	近間 由幸				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える</p> <p>【概要】授業では、日本の小売企業を対象とし、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われた現代の流通における課題について検討する。</p> <p>【到達目標】受講学生が現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身に着け、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられるようになることを到達目標としている。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石原武政・竹村正明・細井謙一編『1からの流通論 (第2版)』碩学舎</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクションー流通を取り巻く経済環境</p> <p>第 2 回 流通とはなにか</p> <p>第 3 回 日本の欧米化と百貨店の誕生</p> <p>第 4 回 高度経済成長と総合スーパー</p> <p>第 5 回 食品スーパーの革新性</p> <p>第 6 回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア (CVS)</p> <p>第 7 回 ディスカウント・ストアの低価格戦略</p> <p>第 8 回 専門量販店の台頭</p> <p>第 9 回 ショッピングセンターの商業集積</p> <p>第 10 回 インターネット技術と電子商取引 (EC)</p> <p>第 11 回 流通構造の変化と小売業態</p> <p>第 12 回 小売・流通における労働問題 (1) 一物流危機とトラックドライバー</p> <p>第 13 回 小売・流通における労働問題 (2) 一接客販売業の働き方</p> <p>第 14 回 現代流通と消費行動の変化</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、期末レポート (70%)							
実務経験について	なし							

授業科目	経営工学		担当者	倉重 賢治				
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 特になし</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：経営工学とは</p> <p>第 2 回 生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第 3 回 生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第 4 回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第 5 回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第 6 回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか</p> <p>第 7 回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第 8 回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第 9 回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第 10 回 投資計画 2：プロジェクトの価値</p> <p>第 11 回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第 12 回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第 13 回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第 14 回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)							
実務経験について	なし							

授業科目	応用データ活用		担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 2年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	適宜対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理</p> <p>【概要】この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし			
授業スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：データベースのデータ編集 第 4 回 Access の操作：クエリの作成 第 5 回 Access の操作：アクションクエリの作成 第 6 回 Access の操作：データベースの設計 第 7 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 8 回 Access の操作：レポートの作成とマクロの利用 第 9 回 Excel による統計処理：基本統計量 第 10 回 Excel による統計処理：正規分布 第 11 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 12 回 Excel による統計処理：比率の推定と差の検定 第 13 回 Excel による統計処理：平均値の推定 第 14 回 Excel による統計処理：平均値の差の検定 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)			
実務経験について	なし			

授業科目	プログラミング		担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 2年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	適宜対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) たてばやし淳, 『ExcelVBA 塾』マイナビ出版 (2) 特になし			
授業スケジュール	第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：マクロについて 第 3 回 VBA の利用：セルの操作 第 4 回 VBA の利用：演算と変数 第 5 回 VBA の利用：繰り返し (1) 第 6 回 VBA の利用：繰り返し (2) 第 7 回 VBA の利用：最終行の取得 第 8 回 VBA の利用：条件分岐 (1) 第 9 回 VBA の利用：条件分岐 (2) 第 10 回 VBA の利用：関数の利用 第 11 回 VBA の利用：データ抽出 第 12 回 VBA の利用：シートの操作 第 13 回 VBA の利用：ファイルの操作 第 14 回 VBA の利用：実用マクロ 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)			
実務経験について	なし			

授業科目	簿記論Ⅲ		担当者	宗田 健一	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営内容の把握と経営管理に役立つ知識として、商業簿記を学ぶ。</p> <p>【概要】複式簿記について基礎的な理解がある学生を対象として、日商簿記2級レベルの商業簿記のテキストを用いて、様々な取引の会計処理方法や記帳方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】株式会社の会計について基礎的な内容を理解する。また、財務諸表の作成と利用について基礎的な知識を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) TAC株式会社編『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版, 2024年</p> <p>(2) 講義時に指定する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 簿記一巡の手続き, 財務諸表</p> <p>第2回 現金・預金, 債権・債務</p> <p>第3回 有価証券, その他債権・債務</p> <p>第4回 商品売買</p> <p>第5回 固定資産, リース取引</p> <p>第6回 無形固定資産, 研究開発費, 引当金</p> <p>第7回 外貨換算, 税機に, 税効果会計</p> <p>第8回 株式発行, 剰余金の配当・処分</p> <p>第9回 決算手続, 財務諸表の作成</p> <p>第10回 収益の認識基準</p> <p>第11回 本支店会計</p> <p>第12回 連結会計1</p> <p>第13回 連結会計2</p> <p>第14回 会計基準</p> <p>第15回 まとめ:試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習, 復習が大切です。				
成績評価の方法	中間テスト (30%), 期末テスト (70%)				
実務経験について	なし				

受講前に、次の科目を履修済みであること(簿記論1, 2, 会計学総論), もしくは、日商簿記3級, 全経簿記2級, 全商簿記1級に合格していること。

授業科目	情報論特講		担当者	岡村 俊彦・倉重 賢治	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前に適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ICT (情報通信技術) について実用的, 応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】ハードウェア, ソフトウェア, ネットワークといった ICT を学び, 日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト (エクセル) の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】実社会において, 自ら ICT 業務に携わり, 効果的, 効率的な活用ができるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」, プリント</p> <p>(2) 特になし</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明: 授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト: PC 等の ICT 機器のハードウェア, ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータの内部部品1: CPU とメモリの解説</p> <p>第4回 コンピュータの内部部品2: ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第5回 インターネットとネットワーク: TCP/IP の設定, ルータの役割の解説</p> <p>第6回 表計算ソフトの活用1: Web クエリのグラフ作成</p> <p>第7回 表計算ソフトの活用2: フィルターとピボットテーブル</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字: 2進数</p> <p>第9回 情報セキュリティ1: インターネットの危険性</p> <p>第10回 情報セキュリティ2: 暗号</p> <p>第11回 数理モデル1: シミュレーション</p> <p>第12回 数理モデル2: 最適化</p> <p>第13回 AI の利活用: AI とは</p> <p>第14回 AI の利活用: 機械学習</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート (30%) + 授業中の課題 (40%) + 期末試験 (30%)				
実務経験について	なし				

(注)「情報科学概論」(担当: 岡村)を履修済み, もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする